

## 「職場訪問で感じたこと」

### 進路指導部

14期生の定期職場訪問(2回目)を先日終わりました。1回目(5月)の職場訪問時に比べ職場環境に慣れて、個々の能力を職務に活かしている卒業生が全般的に多かったというのが、率直な感想です。細かな様子は、10月12日に行われた、高等専修学校の保護者研修会時にビデオを放映しましたが、中でも、客室清掃部門やハンバーガー製造補助部門、部品の振り分け業務における技術・速度の向上には、目を見張るものがありました。生徒から社会人への意識改革が上手に出来ていることや任された職務に対して段取りよく行う姿勢が、順調に社会生活を送っている卒業生には、一様に言えます。この半年の間に、誰しも幾つかの課題が提示されて参りました。その課題には、自身で克服できるものと、家庭や学校が強く連携していくことで克服出来るものがあります。個人差はあるものの、今があるのは、努力の賜と言えます。現在も、その課題克服に向けて、懸命に努力されている方がおります。正直なところ、職場によっては、際限なく課題が提示されるのではないかと、私共でも不安になることがあります。そんな時には、当面どこまでを職域とし、任された業務の達成度合い(完成度)のどこに上限を置いているのかを、はっきりと聞くことにしています。

当然、現状が一杯の処で、新たな課題は一切受け付けられないといった消極的なものではなく、職場と卒業生の状況に応じ、緩やかで段階的なものであれば好ましいことは、誤解の無いようにお伝えしております。

その結果、際限なくという考えを提示されたことは一度もありません。ただし、キャリアアップといった観点では、継続的な就労生活を送る為に求められることはあるという現実的な問題はあります。元々、障害のある方が、健常者と比較されること自体が間違いなのですが、とかく実社会では比較対象となりがちで、苦勞することが多々あります。就労後の職場訪問は「定着」を目的にしているのに対して、実習時のそれは「就職」を目的にしておりますので、その切実さが全然異なることを、ご理解下さい。就労後の職場訪問をしていく中で、企業就労が福祉就労に比べて就労後の課題が多く厳しいことも、ここ数年とみに感じております。昨今、在校生の皆さんが、就労について考える時、企業就労と福祉就労に大きな違いをもたれておりますが、是非その違いを表面的なものに限定するのではなく、トータルな面で吟味していく必要があるのではないのでしょうか。個々の職場によって差はありますが「定着」と「就職」の両方を努力によってクリアすることが、自身にとって一番の幸せだと感じております。